

獣害に立ち向かう集落の育成

対象 野生獣による被害集落

【普及活動のねらい・対象】

甲賀地域の野生獣による平成25年度の被害状況は74ha、5,300万円でした。防護柵の設置がある程度進んだこともあり、全体ではピーク時の平成22年度(面積582ha、金額1億3,300万円)から大幅に減少したものの、被害が特定のほ場・集落に集中していること、サルの被害が減っていないこと等の課題が残っています。

そこで、集落ぐるみの対策を一層進めるため、被害報告があるにも関わらずこれまで集落環境点検に取り組んでいない集落を中心に点検の実施や被害防止計画の作成を誘導する活動を展開しました。

また、獣害対策を自主的に行える人材を育成するため、集落から推薦された者を対象としたリーダー育成講座や集落・自治振興会への出前講座を通じ、防除技術の習得を目指しました。

さらに、甲南町の宮地区自治振興会を対象に、主にニホンザルの被害防除に関する広域的な対策のモデルケースになるよう支援しました。

【普及活動の経過】

1. 集落環境点検

本年度は、集落環境点検を希望する集落に対し、平成27年1月末までに、簡易な環境点検を7集落で実施しました。

簡易環境点検は、平成24年度に実施した獣害防止対策集落環境調査の結果などを参考にして、獣害対策上重要なポイントを調査し、結果を野帳や地図に取りまとめてもらいました。



集落環境点検活動(田代)



集落環境点検活動(鮎河東野)

点検の結果、防護柵の思わぬ不良箇所や耕作放棄地などの獣のひそみ場所などが認識されたり、野生獣の侵入経路が明確になるなど、獣害対策に取り組む際に参考となる貴重な情報が得られました。

2. 集落リーダー育成講座

被害が確認された15集落から推薦された25名が、4回のリーダー育成講座を受講されました。内容は、獣害に関する基礎知識、滋賀県初の獣害対策アドバイザーに認定されたF氏と連携した集落環境点検現地研修や、防護柵に関する現地研修、心理的ストレスを活用した防除技術といった、獣害対策の基礎から応用までを幅広く学べる講座になりました。

また、第4回の最終講座では、獣害対策実施計画の作成実習を行い、9集落・14名から計画書を提出していただきました。最後に、修了要件を満たした14名に対して修了証を授与し、4か年間で延べ83名が本講座を修了されました。



3. 集落を超えたサル対策モデル地区の育成
広域的なサル対策を進めるモデル地区として、5集落で構成される甲南町の宮地区自治振興会を選定し、甲賀市等と連携して支援活動を行いました。今年度は、①昨年から進めている学区単位での組織的な追い払いの本格始動、②サルのエサ場になりやすい菜園を守る簡易防護柵の展示実証、③隣接する伊賀地域との情報交換会によるサル対策の検討を行いました。

アドバイザーと連携した現地研修（大澤）



伊賀・甲賀の関係者によるサル対策の協議



サル対策簡易防護柵の研修（宮地区）

4. 緩衝帯整備に関するモデル集落の育成

甲賀地域では、防護柵と緩衝帯などの環境整備を組み合わせた複合的な対策が進んでいません。

そこで、畜産技術振興センター等を交えて現地検討会を開催し、放牧によるモデル集落について検討を始めるとともに、甲賀町内の緩衝帯整備を進めていくことができないか森林整備事務所や市と連携し検討しているところです。

【普及活動の成果】

集落環境点検を実施した集落からは、「点検を行ったことで、これまで気づかなかった被害状況や改善のポイントが明らかになり、具体的な獣害対策が検討できた。」といった声が聞かれました。なかには実施計画に基づいた対策に向けて、市の事業などを活用して取り組んだ集落も現れています。

また、リーダー育成講座の修了者が率先して最新式の獣害柵の導入を行うなどの事例も見られるようになりました。本年度は、講座修了者の中から県内で初めての地域アドバイザーが誕生し、各種研修会の講師として、集落や地域での捕獲を含めた対策のけん引役として活躍していただきました。

広域対策では、今回のモデル地区以外にも、自治振興会で獣害対策に取り組む地域も土山町で出てきており、自治振興会への支援を通じて、集落単位から広域での取り組みにスムーズに移行できるよう支援していきたいと考えています。

今後も、一つでも多くの集落で集落ぐるみの活動をしていただけるよう、関係機関と共に取り組んでいきます。（竹若）